

## 第36回 入学式 式辞

木々の芽は、日を追うごとに柔らかな緑に包まれ、生命の息吹を感じさせるこの季節、希望に満ちた春が巡ってまいりました。

喜びと希望の象徴であるような、このよき日に、御来賓、並びに多くの保護者の皆様方をお迎えして、平成30年度茨城県立藤代紫水高等学校第36回入学式が厳粛のうちに挙行できますことは、本校にとってこの上ない喜びであり、教職員を代表しまして厚くお礼を申し上げます。

ただいま入学を許可された240名の皆さん、入学おめでとうございませう。心よりお祝いを申し上げます。

明るい希望と、大きな抱負を胸に入学してきました皆さんを迎え、私たち教職員をはじめ、2年生・3年生の在校生すべてが、皆さんを全校をあげて、心から祝福し、歓迎いたします。

皆さんは、今日から藤代紫水高等学校生としての生活が始まります。九年間の義務教育を終え、高等学校という新たな学びの場へ、一步を踏み出した訳であります。

本校における高校生活三年間は、心もからだも大きく成長し、大人へと脱皮していく最も大切な時期であり、同時に、人として、社会生活を営む上で必要な、資質と能力を養うのもこの時期であります。本校には「知性を磨き、心を豊かにし、じょうぶな身体をつくろう」の校訓のもと、「知」「徳」「体」のバランスのとれた人間を育成するという、創立以来の理念が受け継がれ、地域の皆様に信頼される学校として、進路関係、部活動等において実績をあげてまいりました。

新入生の皆さんは、入学の喜びとともに、様々な不安を持ちながらこの席にることと思います。確かに中学生から高校生になって、皆さんを取り巻く環境は大きく変わるでしょう。しかし、あせったり不安に思ったりすることはありません。高校生活には徐々に慣れていくことと思いますし、先生方は、本校の教育方針にある「一人一人の生徒に誠実に向き合う」素晴らしい先生方ばかりですので、遠慮なく相談してください。

そして、これからの一日一日の高校生活を、また、一時間一時間の授業を大切にしながら、「高い志」や「夢」を持ち様々な課題や変化に対し、智恵や知識をしぼり、乗り越えていく力を養って行ってください。

そこで、皆さんに、二つのことを心がけて欲しいと思います。

一つ目は、基礎・基本となる知識や技能をしっかりと身に付けて欲しいということです。基礎基本というのは、それを身に付けることによって、事の原理や本質がわかり、多くのことがらに応用することができ、そして、皆さんの未知の能力を伸ばす原動力になります。

二つ目は、自分の可能性を広げるために、何にでも挑戦するという事です。自分の限界を自分で決めてしまわず、自分の可能性を大きく広げて欲しいのです。部活動もその一です。本校は、部活動が活発な学校であり、その中でも、ハンドボール部や書道部が全国トップレベルの実績を収めております。これからの学校活動で青春の汗や涙を流し、悩み、喜びを分かち合いながら我慢することや人の気持ちを理解することの大切さを学び取ってもらいたいと思います。

結びとなりますが、保護者の皆様一言、ご挨拶を申し上げます。

お子様の本校へのご入学、誠にありがとうございます。立派に成長されたお子様をご覧になり、これまでの様々なご心配やご苦労が、報われた、と感じておられるのではないのでしょうか。皆様にはこれまで、お子様を慈しみ、はぐくまれて ころれましたことに対し、深い敬意と心からのお祝いを申し上げる次第でございます。

本日から、お子様を本校生としてお預かりした上は、私ども教職員一同、全力で、生徒一人一人の教育に当たる所存であります。そして、より一層、教育の成果を上げるためには、ご家庭との連携を密に取り、心をつなげて指導に当たるのが重要だと考えております。

保護者の皆様におかれましても、義務教育とは異なる高等学校教育の在り方や本校の教育指導方針に、ご理解をいただき、ご協力とご支援をお願いいたします。

本日入学された皆様の、本校での三年間が有意義なものとなりますよう祈念し、ご臨席いただきましたご来賓の皆様にご挨拶を申し上げます。

平成30年4月9日

茨城県立藤代紫水高等学校 校長 佐藤 仁

